

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数		
				薬量	希釈水量					
果樹類 (かんきつを除く)		一年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	200～500 ml/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内		
		多年生雑草		500～1000 ml/10a						
		スギナ		1500～2000 ml/10a						
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a						
かんきつ		一年生雑草		200～500 ml/10a		5回以内			5回以内	
		多年生雑草		500～1000 ml/10a						
		スギナ		1500～2000 ml/10a						
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a						
びわ(葉)	—	一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200～500 ml/10a	3回以内	1回				
		多年生雑草	収穫7日前まで (雑草生育期)	500～1000 ml/10a						
		スギナ		1500～2000 ml/10a						
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a						
オリーブ (葉)		一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200～500 ml/10a	3回以内	1回				
		多年生雑草	収穫21日前まで (雑草生育期)	500～1000 ml/10a						
		スギナ		1500 ml/10a						
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a						
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	2回以内					
		多年生雑草		200～1000 mL/10a						
		スギナ		1500～2000 mL/10a						
水田作物 (水田刈跡)	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	200～500 ml/10a	1回		1回			
		多年生雑草		500～1000 ml/10a						
水田作物、 畑作物 (休耕田)	休耕田	一年生雑草	雑草生育期	200～500 mL/10a	2回以内					
		多年生雑草		500～1000 mL/10a						
		スギナ		1500～2000 mL/10a						

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
水田作物 (水稲を除く)	—	一年生及び 多年生雑草	耕起前 (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	1回	雑草 茎葉散布	1回
移植水稲			耕起直後～出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)		少量散布 25～50 L/10a			2回以内
直播水稲			は種30日前～ 出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)					
麦類	—	一年生雑草及び 多年生イネ科雑草	耕起前又はは種前 まで (雑草生育期) は種後出芽前 (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内
	圃場内の 周縁部	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期)					2回以内
雑穀類 (そば、とう もろこしを 除く)	—	一年生雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	2回以内	雑草 茎葉散布	2回以内
そば			一年生及び 多年生雑草					
とうもろこし		耕起前又は は種前まで (雑草生育期)						
豆類 (種実、ただ し、だいず、 あずき、い んげんまめ、 らっかせい を除く)		一年生雑草	収穫5日前まで (雑草生育期： 畦間処理)					
あずき いんげんまめ	耕起前又は 出芽前まで (雑草生育期)							
だいず	収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)		1回					
	耕起前又は 出芽前まで (雑草生育期)		3回以内					
えだまめ	収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)		2回以内					

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数		
				薬量	希釈水量					
野菜類 (えだまめ、はくさい、キャベツ、アスパラガス、レタス、ねぎ、たまねぎ、ほうれんそう、にんじん、だいこん、ピーマン、とうがらし類、きゅうり、なす、びわ(葉)、ホーブ(葉)を除く)	—	一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200~500 mL/10a	通常散布 50~100 L/10a 少量散布 25~50 L/10a	1回	雑草 茎葉散布	1回		
はくさい キャベツ			耕起前又は 定植5日前まで (雑草生育期)			1回		1回		
レタス			収穫30日前まで (雑草生育期： 定植後畦間処理)			3回以内		3回以内		
ねぎ									耕起5日前まで (雑草生育期)	
たまねぎ			収穫7日前まで (雑草生育期： 畦間処理)			3回以内		3回以内		
ほうれんそう			耕起前又は は種前まで (雑草生育期)			2回以内		2回以内		
にんじん			耕起前まで (雑草生育期)			1回		3回以内		
アスパラガス			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)			1500~2000 mL/10a				
だいこん			一年生雑草			耕起前又は は種前まで (雑草生育期)		200~500 mL/10a	2回以内	2回以内
						収穫5日前まで (雑草生育期： 畦間処理)				
ピーマン とうがらし類 きゅうり なす		耕起前まで (雑草生育期)		1回	1回					
収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)										
いも類 (かんしょを除く)		耕起前又は 植付け前まで (雑草生育期)		2回以内	2回以内					
かんしょ		耕起前又は 挿苗前まで (雑草生育期)				収穫60日前まで (雑草生育期： 畦間処理)				
		スギナ		1500~2000 mL/10a	3回以内	3回以内				

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	
				薬量	希釈水量				
茶	—	一年生及び多年生雑草	摘採7日前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	2回以内	雑草 茎葉散布	2回以内	
さとうきび		一年生雑草	耕起前又は 植付け前まで (雑草生育期)			500～1000 mL/10a		4回以内	
		多年生雑草		2回以内					
		一年生及び多年生雑草	収穫60日前まで (雑草生育期： 畦間処理) (但し、 仮茎長1.5m以上)			200～500 mL/10a		2回以内	
		圃場内の 周縁部	一年生雑草	収穫60日前まで (雑草生育期)					500～1000 mL/10a
多年生雑草									
飼料用とうもろこし	—	一年生及び多年生雑草	飼料用とうもろこし出芽前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	2回以内	雑草 茎葉散布	2回以内	
花き類・観葉植物		一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a		2回以内		2回以内	
樹木類		多年生雑草	—	—		500～1000 mL/10a		4回以内	4回以内
		スギナ				1500～2000 mL/10a			
	マルバツユクサ	500～1500 mL/10a							
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	200～500 mL/10a	3回以内	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に雑草 木茎葉散 布	3回以内		
		多年生雑草		500～1000 mL/10a					
		スギナ		1500～2000 mL/10a					
		ススキ ヒレハリソク クス等のつる性 多年生雑草 ササ類 雑かん木		1000～2000 mL/10a					
牧草	牧野、草地 (更新・造成)	一年生及び多年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	少量散布 25～50 L/10a	2回以内	雑草茎葉 散布	2回以内	
桑			—						発芽前又は 夏切後発芽前 (雑草生育期)
林木	林地 造林地 (地ごしらえ)	ススキ、ササ類、 クス等の 多年生雑草、雑 かん木	生育期	1000～2000 mL/10a	30L/10a	3回以内	雑草木 茎葉散布	3回以内	

注入処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	クズ	生育期	原液	1～2mL/株	—	株頭注入処理	—
		雑かん木	雑かん木 生育期	原液 又は 2倍液	1mL/カ所 幹周7～8cm間隔		立木注入 処理	
		クズ・フジ 等のつる 類	生育期		地上30cm直径			
林木	林地	竹類	夏～秋期	原液	5～10mL/本	—	竹稈注入 処理	—
	林地 放置竹林 畑地							
	林地	雑かん木	雑かん木 生育期	原液 又は 2倍液	1mL/カ所 幹周7～8cm間隔		立木注入 処理	
		アカギ	アカギ 生育期		地上30cm直径			
畑作物	林地 放置竹林 畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～10mL/本	—	竹稈注入 処理	—
	畑地	アカギ	アカギ 生育期	1mL/カ所 幹周7～8cm間隔	地上30cm直径		カ所数	

塗布処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む 農薬の総 使用回数
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	雑かん木	伐採直後	原液 又は 2倍液	切り口全体に 十分量を塗布	—	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に切株 塗布処理	—
樹木類	林地 畑地			原液	<u>切り口直径</u> <u>塗布量</u> 5cm以下 2mL	4回以内	切株塗布 処理	4回以内
牧草	牧野 草地				5～10cm 3～6mL 10cm以上 10mL以上	2回以内		2回以内
日本芝 (のしば)	—	一年生及び 多年生雑草	雑草生育期	5～10倍	3～9L/10a	3回以内	雑草茎葉 塗布	3回以内

3. 使用上の注意事項

- (1) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は土壤中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (5) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (6) 本剤は通常 2～7 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (7) スギナ防除に際しては、スギナが他雑草の中に埋没しているような条件の散布では効果が劣ることがあるので、スギナにかかるように注意して散布すること。
- (8) 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (9) 生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (10) 処理後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (11) 注入処理の場合には
 - 1) 雑かん木には、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ薬液を注入処理するか、ドリル等で穴を開けて薬液を注入処理し穴をコルク栓などで塞ぐこと。
 - 2) アカギには、根張り付近に等間隔にドリル等で穴を開けて薬液を注入処理し、穴をコルク栓などで塞ぐこと。
 - 3) 竹類の竹稈注入処理の場合は、処理竹から 15m 以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札により、たけのこが採取されないようにすること。
 - 4) クズ・フジ等つる類のつる注入処理に使用する場合は、出来るだけ地際に近い部分に、外皮を木部が現れるように切り出しナイフ等で剥皮(幅 1.0～1.5cm、長さ 6～8cm 程度)し、切り口に薬液が十分付着するように処理すること。また、つる径 2cm を超えるものは浅めに切り口を 1～2 箇所つけて処理すること。
 - 5) クズの株頭注入処理に使用する場合は、株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理すること。
- (12) 少量散布の場合は、専用のノズルを用いて雑草の葉面に均一に散布すること。
- (13) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意すること。
- (14) 水田畦畔のアシカキ、ハイコヌカグサ、キシユウスズメノヒエ等に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (15) 生育期畦間処理で使用する場合は、飛散防止カバーを使用し、作物体にかからないように散布すること。
- (16) さとうきびの畦間処理で使用する場合は、仮茎長が 1.5m 以上のさとうきびに使用し、さとうきびにかからないよう雑草茎葉に散布すること。また、倒伏したさとうきびに薬液が付着すると薬害が生ずるので、かからないよう十分注意すること。
- (17) 作物の出芽前に使用する場合、出芽後に散布すると薬害を生じる恐れがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- (18) 塗布処理の場合、
 - 1) 雑かん木には、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
 - 2) 芝の一年生及び多年生雑草には、雑草と芝の高低の差等を利用して、雑草の茎葉に塗布器具等で軽くなでるように塗布すること。誤って芝に付着すると薬害を生ずるので十分に注意すること。

- (19) 本剤の調製及び保管に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (20) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
 - 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (21) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (22) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

4. 人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。
眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- (3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用后(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- (4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

5. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- (2) 養魚田周辺での使用には、特に注意すること。
- (3) 水産動植物(藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。

6. 引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨 通常の使用方法ではその該当がない。

7. 貯蔵上の注意事項

直射日光を避け、食品と区別してなるべく低温な場所に密栓して保管すること。